

自然再生・循環社会対策特別委員会（平成23年6月定例会）

発 言 者	発 言 要 旨
井上（航）委員	<p>1 資料3ページ「（3）住宅用太陽光発電設備設置補助」について、和光市でも住宅用太陽光発電補助を行っておりニーズが高いが、東日本大震災の影響により、太陽光発電を利用したいという方が更に多くなっている。このままでは、予算が尽きると思うが、ニーズに沿って補正を行うつもりはあるのか。</p> <p>また、一方で際限なく補正を行うのもいかがと思うがどうか。</p> <p>2 資料3ページ「（4）電気自動車の普及」について、充電器の設置を国道17号を中心に行うということであったが、高速道路への設置状況はどうなっているのか。</p>
温暖化対策課副課長	<p>1 住宅用太陽光発電補助申請の件数について、資料では5月末の件数を掲載しているが、6月末で3,679件の申請をいただいている。このままでは、予算は12月前に消化してしまう状況にある。</p> <p>現在、補正予算の可能性も含め検討を行っている。補助がなくても太陽光発電設備の設置が進むのか、補正の効果があるのかについて検討を行っている。</p>
大気環境課長	<p>2 高速道路の充電器設置状況について、東名高速道路は海老名サービスエリアなどで設置が進んでいる。また首都高速道路でも設置が進み、県内では八潮パーキングエリアに設置されている。</p> <p>関越自動車道については充電器が未設置であるため、今後、三県知事会議などを通じ、東日本高速道路株式会社に対して、充電器の設置を要望していく。</p>
井上（航）委員	<p>補正も含め制度として、太陽光発電を進めていく考えを持っていると受け取ったが、住宅用太陽光発電設備設置補助について、設備設置後の効果をどのように把握しているのか。</p> <p>また、導入の効果を公表することにより、設備の設置を更に促進させることができると考えるがどうか。</p>
温暖化対策課副課長	<p>県では設置者に対して、導入の経緯や補助の必要性などといったアンケート調査を実施し、結果をホームページで公開している。</p> <p>また、今年度、補助を予定している6,100件を含め、今年度末には累計約5万基が設置されることとなり、年間約61,000トンのCO2削減を見込んでいる。今後、設置を検討している方の</p>

発 言 者	発 言 要 旨
温暖化対策課 副課長	参考となるような情報を精査し公表していく。
井上（航）委員	<p>県民案内室に「クールオアシス」の貼り紙があるが、環境部の所管なのか。自宅でクーラーを使うのではなく、県庁に涼みに来てもらうという内容であったと思うが、節電対策の一環ということか。</p>
温暖化対策課 副課長	<p>「クールオアシス」は保健医療部の所管である。熱中症の観点から実施している。</p>
井上（航）委員	<p>公共施設を開放するのと、自宅にいて節電してもらうのと、どちらの方が節電になるのか。公共施設を開放するのはよい考えであると思うが、「クールオアシス」を県内公共施設に広めてもらうことを環境部としてできないか。</p>
温暖化対策課 副課長	<p>環境部では家庭の節電を担当している。個々の家庭で電気を使用するよりは、公共施設を開放し1箇所に集まることは有効な取組であると考えている。同様の考え方で「クールスポット100選」を実施しているが、委員お話しの公共施設、例えば図書館などもよいと考えている。保健医療部との連携も考慮して検討していきたい。</p>
井上（航）委員	<p>「エコライフDAY」事業そのものを実施することにより発生する電力やCO2は考慮されているのか。例えば、「エコライフDAY」では、チェックシートを70万枚印刷すると思うが、印刷機を動かすことにより発生する電力やCO2と「エコライフDAY」によって削減できる電力やCO2とのプラスマイナスは考えているのか。</p> <p>節電のためのPRに多大な電力を使ってしまっは意味がないと考える。これから節電の事業を行うに当たり、このような考えが必要ではないかと考えるがどうか。</p>
温暖化対策課 副課長	<p>委員御指摘の事項については、具体的に算出していない。今夏はチェックシートを約90万枚印刷し、85万枚を配布済みである。「エコライフDAY」1日のチャレンジで削減できるCO2量は限りがあるが、一人一人の県民が自ら環境保全活動を実践することへ</p>

発 言 者	発 言 要 旨
温暖化対策課 副課長	つながれば、効果は高まるものとする。今後も事業に必要な経費や排出されるCO ₂ を常に意識しながら進めていきたい。